

## 播種年内に咲いたチングルマ

増田恭次郎

富山大学理学部生物学科 〒930-8555 富山市五福3190

### Flowering of *Geum pentapentalum* (L.) Makino

Kyojiro Masuda

Department of Biology, Faculty of Science Toyama University, Gofuku 3190,  
Toyama 930-8555, Japan

2000年10月7日奥大日岳で採集したチングルマの種子をチャック付きビニール袋に入れて冷蔵庫に保管した。2001年3月27日赤玉土2：パーク堆肥1の植土を調整して植木鉢に入れ種子を播き、冠毛が隠れる程度覆土して、温室で管理した。

4月30日から発芽を開始した。夏期も温室で管理し、9月までに薄い液肥（窒素：リン酸：カリ＝15：15：10）を2回与えた。



10月上旬に13株の中の一株に蕾が付いているのが見つかった。10月23日に開花した。

草丈 4.5cm  
葉数 14枚（葉長 3～5cm）  
花径 2.6cm  
花軸長 1.1cm

今までもチングルマの播種実験を行ったことがあるが、いずれも秋の紅葉までに3～5cmにまで茎が伸び、翌春4月上旬に花を咲かせていた。今回の開花は一種の狂い咲きと思われるが、花軸が短く、見慣れたチングルマの花とは違って見え、非常に美しかった。

(2001年12月28日受理)

私の解剖ノートから-1

## ミズムシ *Asellus hilgendorfi* Bovallius

布村 昇

富山市科学文化センター 〒939-8084 富山県富山市西中町1-8-31

### One page of my note on animal anatomy I

#### *Asellus hilgendorfi* Bovallius

Noboru Nunomura

Toyama Science Museum, Nishinakano-machi 1-8-31, Toyama-shi, Toyama  
939-8084, JAPAN

電子メールやインターネットの発達によって、内外の見知らぬ人からの質問がどんどん来るようになった、私の勤める富山市科学文化センターでも、ホームページ経由やメールを通して世界中から質問が来るようになった。中には海外から日本産の種類についての性質を教えてくださいという質問が来たりすることが頻繁になってきた英語での質問解答にかなりの時間をつぶすようになった。それらの中には生物についてごく普通の種類でありながら意外に知られていないものがある。分類、形態、生理・行動、生態、解剖の仕方、飼育方法など多岐にわたっている。

その中には富山でも普通に見られる種類も多い。そこで、それらの解剖図を示しておけば、内外の研究者の参考にもなるし、小学校から大学までの理科や生物学の役にも立つかもしれないと考え、順次、示すことにした。解剖はいろいろなことへの導入として重要だからである。

#### 1. ミズムシ *Asellus hilgendorfi* Bovallius とは

数ある動物群のうち、もっともリクエスト多いものの一つは甲殻類のミズムシである。昨年もアメリカやイタリアから問い合わせがあった。本種は節足動物門、大顎亜門、甲殻綱（または甲殻上綱）Crustacea、ワラジムシ目（等脚目）Isopoda、ミズムシ亜目Asellota、ミズムシ科Asellidaeに

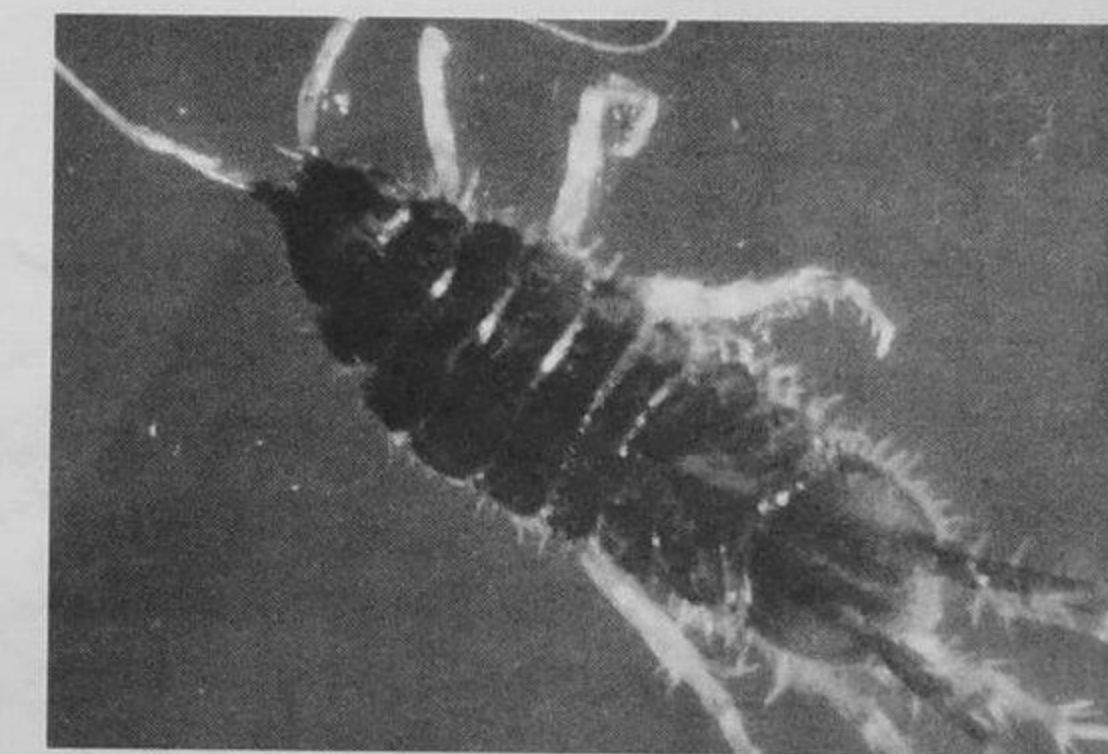


図1 ミズムシ（富山市いたち川産）

属する。本科は日本に23種、世界で300種が知られている。

ミズムシは富山県内では小川や池沼、湧水などに広く分布し、富山市内の河川でもシマイシビルと並んでもっとも普通に見られる大型動物である。なお、昆虫にもミズムシという種があるが、こちらは全く別ものである。

ミズムシの体は頭部、胸部、腹部、尾部に分かれている。頭部には第1触角と第2触角の2対の触角がある。口は大顎、第1小顎、第2小顎、本来は第1胸脚である顎脚からなる。胸部は本来8対の節からなり、各1対の付属肢を持つが、第1胸節が頭部と融合し、第1胸肢が顎脚となっているので、本来の第2から第8胸節が胸部として認識される。したがって、7つの胸節と7対の胸脚が目につくのでこれを第1～第7胸節、ならびに第1